

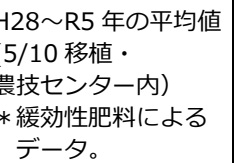
令和7年度栽培者用 Ver1
令和7年1月 滋賀県農業技術振興センター

- ・化学肥料(窒素成分)を使用しない
- ・下表の基準量を目安に施用
- ・地力の低いほ場での栽培は減収リスクが高いので避ける
- ・側条施肥の場合、6月下旬頃に葉色が淡くなり始めたら葉色 3.8 以下になるまでに（ ）内の量を目安に追肥
- ・穂肥は**幼穂形成期（幼穂長 1mm）の1週間前(7月上旬)**および、**1 回目の2週間後**を目安に 2 回施用

- ・ 温湯消毒は 60～62℃で 10 分間
- ・ 温湯消毒後の種子は直ちに浸種するか、十分に風乾して低温低湿度で保管する
- ・ 5 月 10 日から 20 日を中心に移植
- ・ 栽植密度は下表の基準を参考とする

- ・代かき前にあぜ塗りや畦畔補修で漏水対策
- ・除草剤処理後はやや深水で 7 日間の止水管理を遵守
- ・目標穂数の 8 割の茎数（茎数の推移を参考）で溝切り・中干しを実施
- ・出穂前後各 3 週間は常時湛水管理
- ・品質低下防止のため刈取予定日の 5 日前までは間断かんがいを実施

- ・ 粉黄化率 85～90%が刈取適期
- ・ 乾燥時の仕上げ水分は 14.5%
- ・ 1.85 mm以上の網目で選別



地帯			大豆跡	整粒歩合
湖辺粘質、 高地力田	湖辺砂質、 平坦	中山間		
510～540kg	480～510kg	480kg	510～540kg	80%以上

中干し開始 : 300 本/m²
(50 株植 : 20 本/株)
(60 株植 : 17 本/株)
(70 株植 : 14 本/株)

最高分げつ期：475 本/m²
(50 株植：31 本/株)
(60 株植：26 本/株)
(70 株植：22 本/株)

幼穗形成期：430 本/m²
(50 株植：28 本/株)
(60 株植：24 本/株)
(70 株植：20 本/株)

成熟期：380 本/m²
(50 株植：25 本/株)
(60 株植：21 本/株)
(70 株植：18 本/株)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月～			
生育期 区分	育苗期	移植期	活着期	有効分げつ期	無効分げつ期	幼穂形成期	穂ばらみ期	出穂期	登熟期	成熟期
水管理	浅水代かき・自然減水	やや深水 浅水	浅水管理	中干し	間断かんがい	★常時湛水管理（出穂前後各3週間）			間断かんがい	
栽培管理のポイント（★は注意事項）	★病害虫の常発地域を避けて栽培 【栽培に適したほ場の選定】 ・温度管理の徹底で徒長と葉焼けを防止 ・つす播き、均播を励行 ・温湯消毒後はすぐ浸種するか、風乾後低温低湿で保管 ・温湯消毒は60℃で10分間実施 ★健全な育苗 【健苗の育成】 ・丁寧な代かきにより漏水を防止 ・あぜ塗りや畦畔補修を実施 ★漏水防止対策 ・除草剤処理後はやや深水で止水管理7日間を徹底 ・除草剤処理時は漏水対策を徹底 ・除草剤処理後はやや深水で止水管理7日間を徹底 ★基準の栽培密度で移植 【移植・施肥】 ・5月10日から20日を中心に移植 ★追肥施用 【雑草管理】 ・窒素成分2kg/10aを基準 ★溝切り・中干しは目標穂数の8割の基数で実施 【溝切り・中干し】 ・ヒエ等が目立つ場合に中期剤を処理 ★幼穂形成期1週間前とその2週間後の2回施用 【穂肥施用】 ・窒素成分6kg/10aを基準に分施 ★出穂2～3週間前と出穂期の2回草刈りを徹底 【カラムシ防除のための畦畔2回連続草刈り】 ★刈取予定日の5日前まで間断かんがいを実施 【登熟後半の水管理】 ・刈り遅れると胴割れや茶米が増加するので注意 ★粗黄化率85%～90%が刈取適期 【適期収穫】 ・適正な乾燥速度で胴割れと過乾燥米を防止 ・乾燥時の仕上げ水分は14～15% 【乾燥調製】 ・秋耕を早期実施 ・稲わら腐熟促進および病害虫発生抑制のため、 ・稲わらすき込みに加えて、牛ふん堆肥等の有機物施用 ・土づくり肥料を施用 【土づくりの徹底】 ★色彩選別機を活用し斑点米を除去 ★1.85mm以上の網目で選別									

